

平成23年11月23日(水) 東山地域交流センターを会場に「自然エネルギービジョンin東北」を開催しました。環境エネルギー政策研究所所長の飯田哲也さんを講師に講演会を行い、市内及び県内外(葛巻町、盛岡市、仙台市、名取市等)から参加した約200名が熱心に耳を傾けました。



講演に先立ち、『被災地が期待するエネルギーの将来像』について、陸前高田市の自動車学校校長の田村満さん、気仙沼市の商店街連合会副会長の赤間文彌さんからお話をいただきました。

その後、飯田哲也さんから『東日本大震災以後のエネルギー政策』と題して、脱原発依存と自然エネルギーの普及、電力市場等についての講演をいただきました。

講演では、「今年の夏は原発が無くても乗り切ることができた。本当に電力が必要なピークの時間帯は少ないので、その時間帯をやりくりすれば、停電することはない。」と指摘したうえで、今後のエネルギー政策について次のように話されました。



熱心にメモを取る参加者

○自然エネルギーへのシフトを進めよう

- ・自然エネルギーは第4の革命として、世界中で普及が進んできている。
- ・政策次第では、日本でも一気に普及することができる。

○今後のエネルギー産業は地方の資本で、自然エネルギー発電を進めよう

- ・地方の資本で進めることで、お金が地方に落ちて潤うようになる。
- ・知識、経験、信頼、洞察、共感をネットワークで繋げ、地域からの変革を展開していこう。
- ・無理のない省エネをしながら、自然エネルギー100%の社会を作っていこう。

講演会終了後には飯田さんのご厚意により、著書販売コーナーで急ぎサイン会が行われ、大盛況でした。最後に、アンケートから参加者の感想を紹介します。

- 自然エネルギーは原発よりもずっと少ない電気しか作れないと思っていたので、原発を上回るかもしれない可能性に驚きました。
- 希望が見えてきた。雇用が生まれる。できることをみんなで知恵と力を合わせて未来世代のためにやっていこうと思った。

環境への取り組み紹介 ⑩

株式会社平野組

当社は、岩手・宮城を中心に東北エリアで業務を展開している総合建設会社です。

東日本大震災による復興が待ち望まれる中、建設会社の存在が見直されてきていますが、依然として建設業界は厳しい環境の中にあります。この現状を打開すべく、当社は数年前から再生可能エネルギー事業に目を向けて活動してきました。

その一環として、ファー社の小型風力発電機を取り扱って、販売から設置工事まで行っております。既に県内では数十箇所設置しており、お目に触れた方もいらっしゃると思います。こちらは、定格出力1kW(風速12.5m/s)、年間平均風速が5.0m/sの場所では月間100kWhの発電が見込まれます。当社では屋上に設置し、バッテリーに蓄電した電気をライトアップに活用しております。また、工事現場などでは発電機の代わりに使用し、CO2削減にも取り組んでおります。東日本大震災の際には、非常用電源として携帯電話の充電や照明の電源として役立ちました。

なお、小型風力発電機の他にも太陽光発電も取り扱っておりますし、小水力(マイクロ)発電の建設実績があります。今後ますます再生可能エネルギーの需要が高まっていくと予想されますので、興味のおありの方はお気軽にご相談ください。

【問い合わせ先】 ☎26-3711



当社屋上の風力発電機

我が家でも太陽光発電装置の設置を考えています。現在は業者の選定、費用の工面、パネルの方向などを検討中。そして、雪解けは早いだろうか、梅雨は短いだろうか、と今から心配しています。太陽光発電はお天気ませ、設置した後は毎晩お天気祭りをしないとイケないですね。

(菅原 寿)

編集後記

「太陽光発電意見交換会」花泉で開催



2月5日(日) 老松公民館を会場に、太陽光発電を導入した方9名と、関心のある方26名が参加し、意見交換を行いました。

はじめに、県地球温暖化防止活動推進員で、宮古市の議会議員でもある須賀原千子さんから、ご自身の発電状況や震災で太陽光発電が役立った事例などを紹介いただきました。

意見交換会では、導入した動機や震災時のメリット、設置コスト、設置してみたの感想等について意見を交わしました。

また設置事業者からは、「太陽光発電を導入する場合の経済的メリットについては、専門業者等に相談してみるとよい。発電量は屋根の方角に関係し、真南で傾斜角30°がベストである。」との助言をいただきました。

市担当者からは、「国の補助を受け市内業者を通じて設置した場合、市から1kW当たり2万円の補助金が交付される。温暖化対策・災害対策のためにも導入を検討してはどうか。」との説明がありました。市の補助制度は24年度も継続する見込みです。皆さんも検討されてはいかがでしょうか。

図書の寄贈

協会から一関図書館に以下の図書を寄贈しました。ぜひご覧ください。  
 ■「懐かしい未来 ラダックから学ぶ」ヘレナ・ノーバーク=ホッジ著  
 ■「いよいよローカルの時代〜ヘレナさんの幸せの経済学」ヘレナ・ノーバーク=ホッジ+辻信一(対談)  
 ■「エネルギー進化論 第4の革命が日本を変える」飯田哲也(著)  
 ■「地域再生」豊重哲郎(著)  
 ※鹿兒島県「やねだん集落」自治会長として人を育て、誇り高い「地域おこし」を実践。

平成24年3月15日発行  
 発行責任者：一関地球温暖化対策地域協議会

問合せ／一関地球温暖化対策地域協議会事務局(一関市民電線部生活環境課)  
 住所：〒021-8501 一関市竹山町7-2 電話：0191-21-8342 FAX：0191-21-2164  
 E-mail: jcskan@city.ichinoseki.iwate.jp  
 〒4-4-11 一関市川崎町1-11 電話：0191-21-8342 FAX：0191-21-2164  
 印刷／川崎印刷(株)  
 掲載に際しては必ず「eco」のロゴマークを使用してください。

いちのせきから ストップ温暖化

東日本大震災から一年

『地球が壊れた!』なかなか止まらない大きな揺れにそんなことを思った。「逃げよう!」と声をかけられ我に返り、泣いている人たちを励まし、動けない人を支えて外に出た。雪が舞う中でも、不思議に寒さは感じなかった。

『何が起きているのか?』様子が知りたくてカーラジオのスイッチを入れた。「大きな津波が来ます」とくり返している。内陸・一関にいてさえ、大変なことが起こったのだと分かった。

忘れかけていたぬくもり

井戸水を使い、太陽熱でお湯を沸かし、となり近所で風呂を分け合った。灯りはろうそく、暖房は薪。情報はラジオから、電池が活躍した。それも慣れた頃、電気が通じるようになり、次第に生活が戻って来た。『蛇口をひねると水が出る』そんなふうに、ガソリンや電気も当たり前のようにそこにある。

停電の間『節約して』『工夫して』『分け合って』家族や地域の絆を深めたぬくもりのある生活は、大変だったが懐かしい。

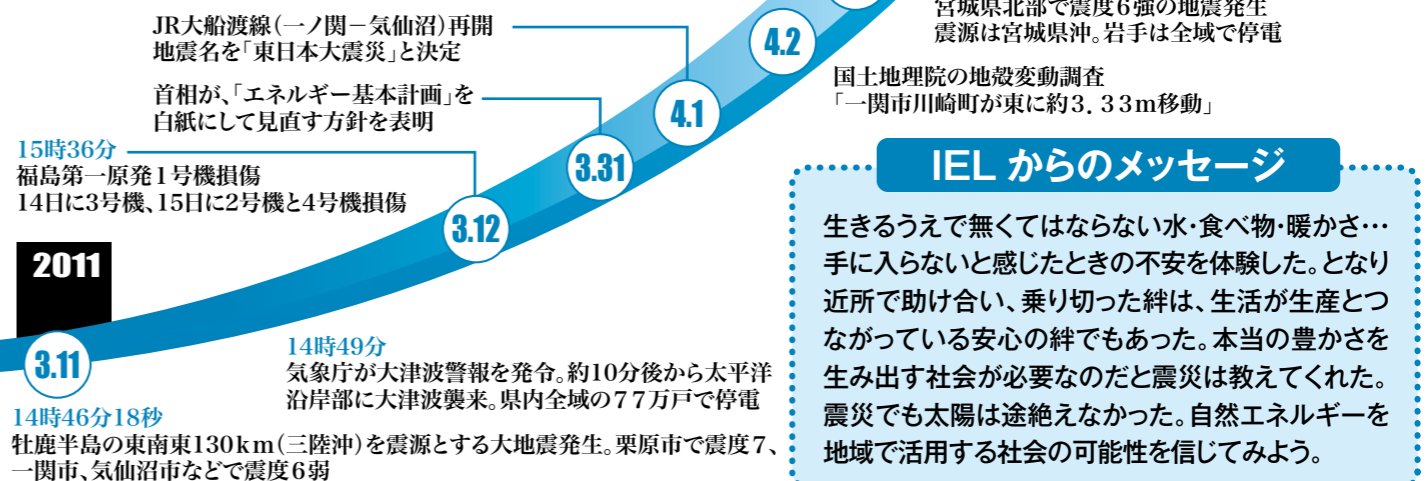
電気・ガソリンが途絶えると日常が一変した。これらを地域で生み出すことが出来るなら、世界は変わるのに。

自然エネルギー自給はもうすぐ

太陽の恵みを光や熱に、そして風や水からエネルギーとして取り出し、工夫して使う社会が見えて来る。

「電気や熱を、自然エネルギーで自給する社会が来るといいますか?」という問いかけは、震災後には「それはいつか?」に変わっている。あらゆるところで『自然エネルギー自給』『燃料自給』の考え方が紹介されるようになった。

「一関・自然エネルギー100%自立」の目標が、おぼろげながら見えてきた。その見えてきた未来は、国内や世界に目をやると、すでに"可能性を信じた者"によって実現されつつある。



IELからのメッセージ

生きるうえで無くてはならない水・食べ物・暖かさ…手に入らないと感じたときの不安を体験した。となり近所で助け合い、乗り切った絆は、生活が生産とながっている安心の絆でもあった。本当の豊かさを生み出す社会が必要なのだと震災は教えてくれた。震災でも太陽は途絶えなかった。自然エネルギーを地域で活用する社会の可能性を信じてみよう。

今、奇跡の本松から「希望の苗木」が育っています

# エネルギーの地産地消を

東日本大震災により、水道・電気・電話・燃料などのライフラインが数日間断たれたました。この時、エネルギーの大切さ、必要性を再確認し、またその供給体制のもろさを体感しました。

この震災から私たちは何を教訓とし、これからどのような方向に進むべきなのでしょう。

## 1 時代と共に変わってきたエネルギー

私たち人類は、食べものをとるだけの原始の時代から、定住して農業を営み、石炭から蒸気を生み出した産業革命を経て、現在は電力網を背景にITを駆使した情報社会を形成しています。生命を維持するために必要なエネルギーの100倍以上のエネルギーを使用して、高度工業化社会を築きあげてきたのです。

戦後の日本の暮らしを振り返ると、長年続いた薪炭利用に代わり、プロパンガスが登場、石油ストーブが普及し、電気こたつも利用されると、エネルギー自給率が急速に低下しました。とりわけ、家庭には電化製品があふれ、電力消費はこの50年で約10倍に増加し、水力から火力へ、そして原子力発電への依存が拡大してきました。

## 2 震災で役立ったエネルギー

今回の大震災ではエネルギー供給が停止した一方で、太陽光発電を設置していた家庭ではテレビが見られ、炊飯器でご飯も炊け、携帯電話の充電もできました。薪ストーブのある家庭では寒さ知らずに過ごすことができ、調理もでき、だんらん

の場にもなりました。天ぷら油からできたBDFはディーゼル車の燃料として物資の輸送を支えました。

これらは社会全体から見ればほんのわずかですが、私たちが進むべき方向を示しているのではないのでしょうか。

## 3 自然エネルギーの特徴

太陽光、風力、バイオマス、小水力などの自然エネルギーは広く薄く分布しているため、大規模化が難しいのが一般的です。その場で利用することでメリットが発揮できる、地域のための地域が生み出すエネルギーです。そのため、分散型のエネルギー供給システムが形成され、その特徴が災害に強いことにもつながります。

太陽や風、水、薪などをエネルギー源とするとき、労力をかけることが必要な場合でも、化石燃料のように地域外にお金

を支払う必要はほとんどありません。そのため、エネルギー源を効率よく使用するよりも、低価格で設備が導入できることが重視されます。

ただし、水やバイオマスなどから供給されるエネルギーは自然生態系などの持続性に配慮しなければなりませんし、バイオマスは流通するための社会システムの形成も同時に進める必要があります。

## 4 電力会社以外から電気を買う？

一般家庭では残念ながらできませんが、電力の自由化という制度改革によって50kW以上の高圧契約をする企業などであれば電力会社からではなく「特定規模電気事業者」(略称PPS)から電気を購入できるようになりました。

例えば、PPSの一つ「エネット」から電力を購入しているのが東京の城南信用金庫です。『原発に頼らない安心できる社会』実現のため、原発を使わない電力会社への契約切替の実施を平成23年12月2日付で発表しています。その利点は、

①東京電力などが主張している今後の電力不足が解消される。

②原発を使わない電力の供給が増え、原発維持の必要性がなくなる。

としています。

どの一次エネルギーで発電された電力であるかを自らの意志で選択できることは画期的なことです。

また、PPSが販売する電力を供給するためには、大規模風力・メガソーラー発電が必要になります。その供給源には東北地方が有望視されています。

## 5 小さな水車から1億円!

大規模な風力発電が立地し、電力自給率が166%(平成20年)である葛巻町では、そこからの固定資産税を家庭用太陽光発電等の設置費補助に充てています。しかし、今回の大震災では、風車で発電した電力が町内で利用できずに停電が続きました。発電会社が電力を遠くに送り、お金に換えているのが現実です。

一方、同じ葛巻町でも昔からある水車の話です。小さな水車でゆっくり挽いたそば粉で打ったそばを味わってもらうために、地域のお母さん方が「森のそば屋」を開店しました。そのそばは次第に評判を呼び遠来の客をも招き入れ、それに力を得て近くに加工・産直施設「みち草の驛」も開店しました。その店は総売上1億円(平成20年)の地域の産業として定着したうえ、3.5haの休耕農地がそば畑として甦りました。震災時には被災地へ加工食品を供給したほか、町内のスーパーに餅やだんごを納め続けたそうです。

小さな水車によるエネルギーが雇用と生きがいを生み、さらには加工販売という地域発祥の産業に繋がった事例です。水車から「ワット」や「カロリー」では表示できない地域経済・地域コミュニティの活性化という大きな波及効果が得られています。



【写真】森のそば屋の水車(葛巻町)

## 6 地域の技術でエネルギー自給を

現在のエネルギー供給システムに支えられた高度工業化社会では、他がまねできない技術に基づく、高額な部品からなる製品の修理や改造が自前ではできません。そのため、私たちの暮らしが専門家に依存するようになり、自らの手に負えないことが多くなっています。

それに対し、地域で身のまわりの自給的エネルギーを生み出す「ローテック」は、誰にでもまねできる技術、ありふれた部品で構成され、修理や改造も自前でできることが望めます。薪ストーブやミニ水力発電、家庭用太陽光発電などを進めると、結局地域の鍛冶屋さん、農機具屋さんや電気屋さんが重宝され、地域に根付いた生業が広がります。人と人のつな

がりも再生され、地域も活力を取り戻し、お金では得られないところ豊かな社会が形成されていくでしょう。

さあ、何世代も続いた知恵を思いおこしながら、エネルギーとなる資源がないか地域をじっと見つめましょう。そこでは、わずかであっても得られたエネルギーが安心感を生むことでしょ。今回の大震災がそのことを教えてくれました。Energy in my yard(EIMY:図参照)身のまわりの、地域のエネルギーです。できることからやってみませんか?

■④を除く論旨の大部分は「地産地消のエネルギー」(新妻弘明著 NTT出版)によるものです。

### エネルギーの地産地消 EIMY Energy in my yard

